

SAWAKI NEWS



Contents

- 特集 1 活躍する学生・生徒たち … 2~3
- 特集 2 夢をかなえるセンター 学園連携活動の紹介 … 4
- 特集 3 コロナ禍での英語学習 … 5
- 大学の施設紹介 … 6~7
- 学園各部報告 … 8~11
- 同窓会だより／マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

特集1

活躍する学生・生徒たち

【生活デザイン学科・メディア情報学科】

「第17回 ACジャパン広告学生賞」において、審査員特別賞、優秀賞、奨励賞を受賞しました

(生活デザイン学科)

今年は全国の美術大学や一般大学から、過去最高の作品数が応募され、総数529点の作品が集まりました。その中から一次・二次・最終選考と審議が繰り広げられ、厳正な選考の結果、生活デザイン学科4年生の下



下石和さんの審査員特別賞作品

上條鈴華さんの優秀賞作品

.....

石和さんが審査員特別賞を受賞しました。同時に、4年生の上條鈴華さんが優秀賞を受賞し、昨年に続いて2年連続で本学の学生がダブルで受賞しました。

下石さんの作品は、カスタマー・ハラスメントをテーマに制作し、お客様のクレームや不当な要求の現実を立体的文字で制作し撮影したアイデアが、公共広告として高く評価されました。また、上條さんの作品は、乳がんの手術跡を気にせずに入浴出来る入浴着の社会への啓発広告で、自らモデルになった写真で表現しています。どちらも、広告のプロフェッショナルが認めれる、完成度の高い広告作品になりました。

(生活デザイン学科・堀内)

【テレビCM部門・奨励賞(メディア情報学科)

メディア情報学科4年生の高橋美羽さん、落合春奈さん、寒風澤実優さんの共作による歩きスマホをテーマにしたCM「スマホだけじゃない、大切なこと。」が、応募総数244作品の中から奨励賞を受賞しました。

高橋さんは、「スマホを見るより大切なことが、この世界には溢れています。スマホは、それ一つで生きてしまっては現代の私たちにとって大変重要なツールになつていま

す。しかしその小さな画面には收まりきらない大切なことがあるとい

うこと、2つのシチュエーションで表してみました。スマホ以外のことにも目を向けて欲しいといふ思いが伝わってほしいです」とのコメントがありました。

(メディア情報学科・岩下)



高橋美羽さん、落合春奈さん、寒風澤実優さん

【管理栄養学科】

W杯2021年間ランキング10位(11月現在)に世界選手権10位に輝き、ランキングされました



管理栄養学科1年生の阿部桃子さんが、クライミングワールドカップ2021(リード)に出場し、今シーズンの年間ランキングで世界8位(日本人1位)となりました。阿部さんは、ヴィラール(スイス)戦で4位に入るなど、1戦から5戦までの全てにおいて準決勝以上に進出しました。また、9月16日～21日にモスクワ(ロシア)で開催されたIFSCクライミング世界選手権2021(リード)にも日本代表選手として出場し、10位(日本人2位)に輝きました。加えて、11月の世界ランク(リード)でも10位にランクインされています。

(管理栄養学科・樋川)

人間心理学科卒業生の論文「マウスはゲシュタルトを知覚しない」が学術誌に掲載されました

人間心理学科卒業生の渡邊光里さん(2020年度卒業)の卒業研究をもとにした論文「マウスはゲシュタルトを知覚しない」が、実験心理学分野で最も権威ある学術誌の一つである『実験心理学雑誌・動物学習認知領域(Journal of Experimental Psychology: Animal Learning and Cognition)』の比較認知特集号に掲載されました。

昨年、日本心理学会若手の会企画シンポジウムの発表でも入賞していますが、学びの集大成である卒業研究の成果が、今回世界的にも学術的に高い評価を受けたことは、指導教員として大変喜ばしく思います。(人間心理学科・後藤)



詳細はこち



【中学部・高等部】バトンツワーリング関東大会、第1位

第56回バトンツワーリング関東大会が行われ、中学部バトンツワーリング部、高等部バトンツワーリング部が出場し、揃って全国大会へ推薦されました。



HALLOWEEN PARTY



祈りの丘



Trick or treat?

カラフルな衣装に身を包み、部員全員で独特的な世界観を表現しました。県大会後、緊急事態宣言、休校期間と満足に練習できない中、与えられた条件の中で最高のパフォーマンスを目指し、大会に挑みました。

観客を入れての初めての大会ということもあり、緊張感と高揚感が入り混じり、落ち着かない様子の生徒たち。思い通りのパフォーマンスとは程遠い実施に、チームの誰もが口をつぐみ、会場をあとにしました。ところが、結果は、中学校の部1位。審査員全員から1位の評価を頂くことができました。高校生チームも第3位と大健闘をし、チームの強さをアピールしました。

2年ぶりの全国大会は12月11日(土)。中学生、高校生共に金賞を目指して練習に励んでいきます。引き続き、ご声援、よろしくお願ひします。

(高等部・対馬)

【高等部】

2度目の東日本大会で第1位を獲得

吹奏楽部は10月10日(日)に北海道札幌市で開催された「第21回東日本学校吹奏楽大会」で見事金賞を受賞(2018年に続き2回目)し、さらに第1位を獲得しました。このような結果を認められたのも、温かく見守つてくださる皆様のお陰です。改めて感謝致します。

9月11日(土)の東関東大会では、強豪ひしめく千葉県勢を押さえて第1位で代表に選出され、「東日本でも絶対に第1位をとるぞ!」と意気込んできました。コロナ禍の制限中でも、相模女子ならではのサウンドや音楽的ドラマづくりに取り組みました。そして、万全な状態で臨んだはずの東日本大会…しかし、経験したことのない構造と響きのホールに戸惑う中、演奏は終わってしまいました。演奏後の部員たちは「落胆」ですから「金賞」と知らされたとき

は、ホッとしたというものが実感です。演奏を聴き直した生徒からも反省しか出てきませんでしたが、そのような課題発見能力の高まりが、第1位獲得の原動力だつたのかもしれません。これからも真摯に音楽と向き合って行きたいと思いますので、変わぬご支援を頂けますよう、お願い申し上げます。

(高等部・近藤)



東日本大会を終えて 札幌のホテルにて

【中学部・高等部】

World Robot Summit 2020 愛知大会競技会シルバーカトーノー

スクールロボットチャレンジ部門1位 ホームロボットチャレンジ部門

ミニサイズクラス2位に入賞

9月8日(水)～12日(日)に、Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で行われた「World Robot Summit 2020 愛知大会」のうち、ロボットの技術やアイデアを競う競技会「World Robot Challenge (WRC)」ジュニアカテゴリーに本学中学部・高等部の生徒が出席し、中学部生徒とフィリピンの Caritas Don Bosco School の生徒のコラボチーム「Saku」がスクールロボットチャレンジ部門で1位(経済産業大臣賞)、高等部生徒のチーム「March」がホームロボットチャレンジ部門ミニサイズクラスで2位(MEDO理事長賞)に入賞しました。

今回の「World Robot Challenge (WRC)」には、日本だけでなくアジア・ヨーロッパ各国から全87チームが参加し、ジュニアカテゴリーにはシンガポールやフィリピンなどの東南アジアから、イタリア、チリなど多彩な国々から19チームが参加しました。その中から3つの部門に分かれて競技が行われ、本学生のチームが優秀な成績を収めました。

本学では今後も、生徒たちが思考力や創造力を身につけていくよう、サポートして参ります。



スクールロボットチーム オンラインで話し合い中



ホームロボットチーム 発表が終って記念撮影

特集2

夢をかなえるセンター

学園連携活動の紹介

大学 × 高等部

サガジョの学び講座の開催

高等部1・2年生を対象に、大学・短期大学部教員による講演会を定期的に行っています。大学・短期大学部全10学科の教員をはじめ、時には学長や副学長、教職センター長など、幅広い分野の先生方が講演を行います。高等部の生徒たちは、興味のあるひとつの講演を選択し、大学の授業がどのようなものかを体験しながら、将来を見つめる機会にしています。



大学×高等部×中学部×小学部×幼稚部

学園連携♪カフェ

幼稚部・小学部・中学部・高等部・大学、それぞれの園児・児童・生徒・学生が互いの学びを共有し、世代を超えて交流を図ることにより、早いうちからキャリアを身近に感じてもらい、たくさんの選択肢の中から夢を見つけてもらえるよう、この取り組みを行っています。



高等部生考案レシピ「バジルチキンサンド」



大学生考案レシピ「プティ・ボヌール」

2015年からスタートした(株)東京ポンパドゥルとの産学連携によるオリジナルパンの商品開発は、今年で7年目の取り組みになります。当取り組みは、大学生に加え、高等部生も参画しており、大学生と高等部生がそれぞれ創意工夫を凝らしたオリジナルパンのレシピを考案しています。2020年度はコロナ禍で家族と過ごす時間が多いためから「家族に食べてもらいたいパン」をテーマとしてレシピを募集いたしましたが、今年度は、参加者が自由にテーマを設定し、それぞれの想いを込めた33作品ものレシピが集まりました。現在は、(株)東京ポンパドゥルにて試作、審査等が行われています。採用されたレシピは商品化され、2022年3月にポンパドゥル町田店にて販売を予定しています。

(株)東京ポンパドゥルとの
産学連携により、オリジナルパンの
商品開発を行いました

2021年度の取り組み



コロナ禍におけるパンの活動を紹介するパンフレットを制作しました

連携教育推進課では、2020年度から2021年度にかけて、「コロナ禍にありながらも正課外における社会貢献活動や国際教育の活動に学生が積極的に取り組んできることについて」一冊にまとめたパンフレットを作りました。学生は各活動においてこれまで対面で行っていたイベントや打合せについてもオンラインを活用して行う等工夫を凝らしながら地域や企業と繋がり続けています。

「コロナ禍ではオンラインを活用した新たな取り組みとして神奈川県・カマクラ株式会社との協働活動「野菜がどれをおやつ・スイーツレシピコンテスト」が開催されました。県の抱える「子どもの野菜嫌い」「未病改善」等の課題に対し、神奈川県産の野菜を使ったレシピを学生が考案するコンテスト形式の取り組みで、学生はオンラインで活動に参加しました。パンフレットにはこれまで行ってきた活動を続けるだけではなく、「コロナ禍における新たな活動にも意欲的に取り組む学生の様子を掲載しています。



製作したパンフレットのイメージ



コロナ禍での学生の取り組みの様子

日経グローカル「大学の地域貢献度ランキングにおいて本学が地域貢献度ランクイン全国女子大No.1になりました

日本経済新聞社が実施した「大学の地域貢献度調査」において、本学が全国の女子大学の中で1位になりました。この調査は、全国76の国公立私立大学を対象に大学が地域社会にどのような貢献をしているのかを調査したもので、今回は新型コロナウイルスの感染拡大やSDGs（持続可能な開発目標）への世界的な関心の高まりなどが項目に反映される中、本学が8期連続全国女子大学No.1を獲得しました。



特集3

コロナ禍での英語学習

大学・短期大学部、
中学部・高等部

新型コロナウイルスの感染拡大により海外研修などの国際交流活動が制限される中、本学ではオンラインを活用する等、工夫をしながら英語学習に取り組んできました。



2021年度秋学期の講義内容のサンプル

〔大学・短期大学部〕
ネイティティブ講師による英会話講座
「キャンパス留学」をオンラインで開催しています

学生が日本にいながらもネイティティブ講師とのレッスンによって国際的な感覚を学ぶことができる英会話講座「キャンパス留学」をオンラインで開催しています。「キャンパス留学」は1回40分を週3回、10週間に亘って受講可能な英会話講座です。受講前テストによってレベル分けを行い、学生一人ひとりのレベルに応じたレッスンを受講することができます。

例年開講している「キャンパス留学」ですが、2021年度からは経験豊富な日本人コーディネーターへ講座に関する質問のほか、「TOEIC®L&R Test」の学習アドバイス等についても相談できる体制を整えています。また、2021年度秋学期からは、英語を使ってSDGsに関する環境やジェンダーなど身近な社会問題についてグループディスカッションを行う等、英会話のみならず、国際社会の抱える課題についても学ぶことができるプログラムを開催しています。

（連携教育推進課）

〔中学部・高等部〕
コロナ禍での初めてのオンライン英語研修

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、毎年恒例のカナダ・オーストラリアへの海外研修が2年連続で中止となってしまいました。実際に海外に行くことはできなくても、国際交流はできるのでは!?:といふことで、今年度はオンラインでの英語研修を8月23日（月）から27日（金）までの5日間で実施しました。参加者は中学部・高等部合わせて14名、朝8時30分～13時までの集中レッスンです。

グループレッスンで行われた今回の研修は、アクティビティを通して楽しみながら英語を学びつつ、自分たちの意見や考えを自由に伝え合ったり、世界各国の子どもたちとオンラインで国際交流をしたりと盛りだくさんでした。SDGsについても学習し、実際にフィリピンでNGO法人を設立して活躍している日本人女性のお話を聞き、フィリピンの現状について学びを深めることができました。

最終日は5日間のプログラム

のまとめとして英語でのプレゼンテーション!

自分の将来や、これから目標について堂々と発表することができました。このプログラムを通じ、2学期以降の14名の成長が楽しみです。

（高等部・大井川）



グループレッスンに積極的に取り組んでいます

臨時休校下で「学びを止めない」小学部の取り組み

新型コロナウイルスの感染が拡大した8月の終わり、小学部では、2学期のスタートをオンライン授業で行うことを決定しました。そして、このオンライン授業期間は、夏休みの終わりから9月24日（金）までの3週間続きました。

昨年度の4月に続いて2度目の実施でしたが今回のオンライン授業では、教員も児童も慣れているため、スムーズに実施することができました。昨年度は手探りの中でのオンライン授業となり、一方通行の授業配信といったスタイルばかりでしたが、高学年では、Google Meetを利用して、教室と家庭を結んで、通常の授業同様に授業を展開。子どもの声や反応を見ながら、授業を進めることができました。また、ロイロノートというアプリケーションを利用して、課題に対する児童の考えを提出させるといった方法も取り入れて学習を進めてきました。

一方で、家庭でも学習計画をしっかりとたててもらえるように、

時間割を配信。その日の学習は、その日のうちにしっかりと終えてもらえるように配慮しました。

この小学部のオンライン授業の様子は、フジテレビでも取り上げられました。

（小学部・澄井）



オンライン授業風景

本学では、学生の皆さんがあなたの学修に取り組むことができるよう、日々充実した学修に取り組むことができるよう、様々な設備の拡充を進めています！

大学の施設紹介

ラーニングコモンズ

ラーニングコモンズとは、学生の皆さんがあなたの学修に取り組むための空間（スペース）です。レポート作成やテスト勉強などでの個人利用はもちろん、仲間とのミーティングやグループディスカッションを通して新しい価値観に触れる交流の場としても利用することができます。

秋学期より

ラーニングコモンズで

学修相談デスクがスタート！

ラーニングコモンズ内には、大学での学修について相談や問合せをすることができる学修相談デスクがあります。大学院生または修士修了のスタッフが、英語・数学・理科の3分野の学修についてサポートするほか、レポートの書き方やまとめ方、資料の探し方、発表やプレゼンの準備・練習等、「読む」「書く」「話す」「探す」面のサポートを行います。



ラーニングコモンズでは何ができるの？

○個人で集中して取り組む

- ・自習をする
- ・読書をする
- ・オンライン授業を受ける
- ・授業での課題（レポート作成など）に取り組む
- ・学修相談デスクを利用するなど

○複数で勉強・議論する

- ・ゼミナールやクラブでミーティングを行う
- ・友達とプレゼンテーションの練習をする
- ・授業で分からない箇所を教え合うなど

この他に、自分にあった利用方法をぜひ見つけてください。

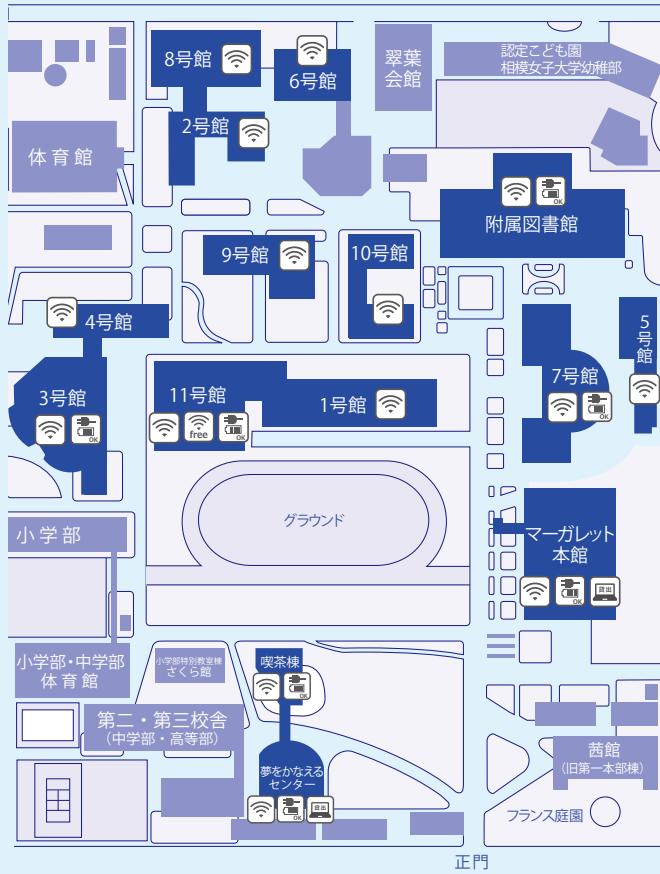
利用できる設備・備品

- ・ノートパソコン（カメラ・マイク内蔵）・プリンター・ヘッドセット・電子黒板・ホワイトボード・ポインターなど



Wi-Fi&「充電スボット」MAP

無料Wi-Fiや、持ち込みパソコン等が利用できる「充電スボット」、ノートパソコンの貸出など、オンライン授業やレポート作成に役立つ設備が学内各所に設置されました！



Wi-Fi接続可能！

学内無線Wi-Fiを、申請なしで利用できます！

*パスワードは学内に掲示しています。
11号館の一部の教室では フリーWi-Fi対応教室もあります！

充電スボット

持ち込みパソコン等が利用できる「充電スボット」を設置しています。

充電中は席を離れないでください



PC貸出

マーガレット本館1階ラーニングコモンズ（窓口：学修・生活支援課）と、夢をかなえるセンター1階（窓口：生涯学修支援課）にてノートパソコンの貸出を行っています。

相模女子大学の学びを支える新しい取り組み

感染防止対策を徹底し
約50%の授業を対面で実施しています

(2021年度春学期実績)



情報処理教室

各座席にアクリル板を設置し間隔をあけて着席しています。また、各教室に消毒用アルコールを設置し、使用前と使用後に必ず消毒をしています。



カフェテリア

座席数を減らし、各テーブルにアクリルパネルを設置。各座席ごとに除菌シートを設置しているので、学生は着席時と離席時に必ず机を消毒しています。またカフェテリアや学生の憩いの場、ラウンジなどに大型の空気清浄機20台を設置しています。

学生生活満足度94.7%
(2020年度卒業年次生アンケート結果)
コロナ禍での退学率 大学1.4%
(2020年度実績)

(私立大学平均8.2%) *朝日新聞と河合塾共同調査「ひらく日本の大学」2020年度調査結果報告より

コロナ禍の
学生生活について

Q1 現在の学生生活は充実していますか？

Q2 オンライン授業と対面授業が併用されていますが、それぞれの良さを教えてください。

Q3 友達とのキャンパスライフはどのように変化しましたか？



山吉菜央

栄養科学部
健康栄養学科
3年

諸星侑

学芸学部
日本語日本文学科
3年

A1 オンライン授業と対面授業を併用して授業を受け、時間を使有效地に使い、学生生活を送っています。

A2 オンライン授業では、実際の対面授業と変わらない様子で授業が進められ、資料が見やすい点が良いと感じています。対面授業は主に調理実習、実験実習を受けています。徹底した感染対策の上行われるので安心感もあり、少人数での授業は深く学べ、とても充実しています。

A3 部活動では感染対策が徹底されるので、楽しく活動することができています。少しずつ環境が工夫され、友人とのキャンパスライフも充実していると感じています。

A1 コロナ前と現在で学生生活は大きく変化しましたが、今だからこそできることを見つけて充実させています。

A2 オンライン授業では、自分のペースで授業を受けることができるため、焦ったりすることがなく理解度が対面授業よりも上がったと感じています。対面授業は、授業終わりすぐに友達と内容を確認したり、分からなかったところを復習したりできる点が良いと思います。

A3 週に1度の会える日を楽しみに日々授業を頑張っています。会える日が少なくなったため、毎日会っていた頃とは違う嬉しさを感じられるようになりました。

学園各部



学園

相模女子大学の学生・生徒・教職員を対象とした新型コロナワクチン大学拠点接種(職域接種)を実施しました

相模女子大学では、マーガレット本館を会場に、本学学生や中学部・高等部生徒、教職員および近隣の県立高校の教職員を対象とした新型コロナワクチン大学拠点接種(職域接種)を実施しました。1回目を9月2日(木)～9月5日(日)、2回目を9月30日(水)～10月3日(日)に実施し、学生約1400名、中学部・高等部生約350名、教職員約90名の他、近隣県立高校の教職員の方々を含め、合計約1900名の接種を行いました。

経過観察・救護ブース(2132教室)



マーガレット本館で実施しました

も感染防止対策と学生・生徒・児童・園児の学習機会の確保を両立するための環境整備に努めて参ります。

(総務課)

大学院・大学・短期大学部

栄養科学部が「2021年学部系統別就職率ランキング」家政・生活・栄養系において全国6位になりました

栄養科学部が、株式会社大学通信の「2021年学部系統別実就職率ランキン

グ」において、家政・生活・栄養系全

国6位になりました。

このランキングは、教育情報通信社である株式会社大学通信が、全国738大学(医科・歯科の単科大学などを除く)を対象に今春の就職状況を調査したもの

で、毎日新聞出版が発行する雑誌『サン

デー毎日』2021年8月29日号に掲載

されました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から、大学全体を通してすべての系統で平均実就職率が前年より下がりました。その中でも、本学栄養科学部は96.9%という、きわめて高い水準の結果となりました。

(就職支援課)

生活デザイン学科の学生が「第24回大学で学ぼう～生涯学習フェア～」の告知用ポスターをデザインしました

生活デザイン学科4年生の下石和さんによる「生涯学習フェア」の告知用ポスターをデザインしました。

本学では、今後



生涯学習フェアポスター

創芸部が神奈川新聞社より取材を受けました

8月3日(火)に創芸部が、神奈川新聞社より、神奈川県内で文芸創作に励む若者たちを紹介する「文芸創作に励む若者たち」というテーマで取材を受けました。創芸部は毎年、本学の学園祭である相生祭で小説などの制作物を出してい

ます。学園フェアの告知用ポスターをデザ

インしました。

このイベントは、神奈川県内の20大学と県立図書館が、大学で学ぶきっかけづくりを応援するため開催するイベントです。

今回、下石さんが制作したポスターは、暖かく明るい色を基調とした目をひくデザインとなっていました。今年の生涯学習フェアのキーチューリーである「聞く、知る、体感!」が大きな木の実として表現されています。

下石さんからは、「自分のスキルアップになると思い引き受けさせていただけきました。成長する木のよう私たちは学びを続けよう」という思いを込めて制作しました。このテーマを親しみやすく伝えられていたら嬉しいです」とのコメントがありました。

(生涯学修支援課)



ラーニングコモンズで取材を受ける創芸部の学生たち



創芸部文芸作品集 (一部)

創芸部の今後の活躍が期待されます。

(学修・生活支援課)

ます。現在は小説のみならず、詩の創作にも取り組んでいます。コロナ禍でも積極的に文芸創作に励んでいることから、今回の取材に至りました。

取材当日は創芸部から5名の部員が参加し、入部した理由や活動内容、現在の創作状況、好きな作品の紹介、今後のクラブ活動の目標、これまでの制作物の紹介などを話しました。

取材後、部長からは「部員同士の良い交

流の場となりました」、「貴重な経験にな

りました」などの感想がありました。

今回

の取材は部員一人一人の個性がわかる有意義な時

間となつたと思

います。

創芸部の今後

の活躍が期待さ

れます。

(学修・生活支援課)

デザイン見学の授業で東京ビエンナーレ「災害対応力向上プロジェクト」のワークショップを行いました

生活デザイン学科の授業「デザイン見学」で、今年初めて開催された国際芸術祭東京ビエンナーレのソーシャルプロジェクトの1つ「災害対応力向上プロジェクト」と、コラボレーションワークショップを行いました。



「災害対応力向上プロジェクト」のワークショップ



良品計画の「ダンボールベッド」解体作業



たくさん収穫できました



芋が見えてくるとやる気が出ます

本プロジェクトはオンラインパートナーズと良品計画の共同プロジェクトで、9月1日(水)の防災の日に、東京北部を中心とした地域の方々と来場者が抱える災害時の不安や問題点を認識し、デザインによる解決策を考えるワークショップに参加しました。また、良品計画が取り組んでいる避難所の居住環境改善につながる組み立て式簡易ベッド「ダンボールベッド」の体験と、避難所の居住環境向上のワークショップにも参加し、様々な意見・アイデア交換を行いました。

学生たちは授業を通して、日常、災害、復旧、復興といった様々な場面における「防災とデザイン」の重要性を再認識することができました。

（生活デザイン
学科 柴田、栗田）

中学2年生 農業体験

中学部 体育部

1・2年生共に高校生活初めての体育祭

大学の畑をお借りして栽培していました

つましいものが収穫の時期を迎えるました。10月25日(月)、各班ごとに感染症対策に留意しながら収穫をしました。初めて芋掘りをする生徒もいましたが、立派なさつまいもに歓声をあげたり、「苗の植え方が良かったんだ」と6月の植え付けを振り返つたりと、楽しみながら収穫する様子が見られました。また、今回の栽培にあたってJAの方や大学の先生にご協力いただき

たことを改めて振り返り、多くの人に支えられて農業が成り立っていることを実感したようです。この一連の学びを、この後の農業の普及CM作成に活かしてほしい

と思っています。また、収穫したさつまいもを使つたレシピコンテストを予定しています。JAの方にも審査に入つていただき、食育活動にもつなげていく予定です。

（中学部・片山）

本番では練習の成果を發揮することができた。クラスが一つになることができました。

体育委員として体育祭の準備をした時には、競技を考えることが大変でしたが、みんなのやりたいことを計画することに、とてもワクワクしました。本番の体育祭で「すごく楽しかった!」という声が多くあつて、とても嬉しかったです。自分も楽しめることができて、みんなも楽しんでくれて、笑顔溢れる中学部体育祭になりました。

（体育委員長 3年 モハメドアミナトウ 美早希）



玉入れ



クラス対抗リレー



体育祭実行委員のチームワーク!

異例続きの体育祭ではありましたが、先生方や2学年全体の協力の下、無事に体育祭を終えることができ、記憶に残る最高の体育祭となりました。

本当にありがとうございました。

（体育祭実行委員長 2年 江上桃葉）

中学部・高等部

1・2年生共に高校生活初めての体育祭

1年生にモルモットを引き継ぐ2年生



1年生のみなさん大切に育ててください

小学部では、低学年の総合学習で生き物の飼育を体験し、命の大切さや動物の生態について学習します。1年生の2学期、1年生は2年生からモルモットを引き継いで飼育がスタートします。各クラスごとに1匹ずつのモルモットを飼育して学習を行います。

2年生では、今までお世話をしてきたからこそ知っているモルモットについての情報を1年生に伝えようと、準備を進めました。「食べ物で何が好きかは伝えてあげたいよね」「ゆきみ（モルモットの名前）が気持ちよく過ごせるように気をつけた方がいいことも伝えよう」と子どもたちからたくさん意見が出され、食べ物・お世話の仕方・鳴き声・掃除の仕方・持ち帰りについてなどを各班ごとにまとめて、1年生にお話することにしました。

迎えた引き継ぎ会当日。朝から「緊張する。1年生にきちんとお話しできるかな？」と引き継ぎ会に向けて緊張している子もいれば、「あ～あ、寂しいな。今日でお別れなんだな」と寂しがり、改めて

体験を通して学ぶ田んぼで米を育てた

5年生



1年生のところでもいい子でいてね

モルモットに触れながら別れを惜しむ子とさまざまでした。

1年間、様子をしっかりと観察し、お世話を中で、生き物を慈しむ素直な感情を育み、命についてしっかりと考えてきたのだなと感じました。

（小学部・中川）

モルモットに触れながら別れを惜しむ子とさまざまでした。

1年間、様子をしっかりと観察し、お世話を中で、生き物を慈しむ素直な感情を育み、命についてしっかりと考えてきたのだなと感じました。

（小学部・中川）

そんな中、男子のチームは、実際の脱穀の道具を調べて、自分たちで再現させました。調べると、段ボールで作ることができることがわかつて、材料を集め、自分たちで作りました。数日かけて世界に1つの機械を作り出した子どもたちのパワーに感心しました。

（小学部・徳本）



お米がとれたぞ!



5年生はJA相模原の方の指導を受けながら、学園内の田んぼで米作りを体験してきました。そして、いよいよ収穫時期となり稻刈りを体験しました。農協のみなさんが来てくださり、のこぎり鎌の安全な使い方を習って稻を刈ると、子どもたちは「楽しい!」「思つたよりも上手く切れた!」と大喜びです。一人3束ずつ刈つたら、根元を麻ひもで結びます。66名の5年生全員が4回程、この作業を繰り返して、全ての稻を刈り取りました。

4日ほどの天日干しを終えると、次は脱穀です。これも機械に頼らず、子どもたちが持つてきている道具で挑戦させました。



5年生男子が作った脱穀機



豊作だね。刈り取った稻を干す

10月9日(土)に作品展が開催されました。幼稚クラスの子どもたちは日頃の遊びの中で触れている折り紙や画用紙、空き箱、絵の具などの様々な素材を使い、自分のイメージに近づけられるように組み合わせながら作品作りに励んでいました。友だちが大きな折り紙で生き物を作っている姿を見て「僕もやってみたい」と興味を持ったり、塗り残しがないよう集中しながら丁寧に空き箱に絵の具を塗つたりと、意欲的に制作活動に取り組

認定こども園 幼稚部

作品展を楽しみました



個性溢れる子どもたちの作品

遊びの中で様々な素材に触れ、感触を楽しみながら夢中になつて取り組んでいました。作りたい物がうまく作れずには悩む姿もありましたが、作品が完成すると嬉しそうに保育者や友だちに見せたり、作った作品を見立てる遊びに取り入れたりと、自分の作品に愛着を持つて遊ぶ姿も見られました。大人にはない発想力と工夫で世界に一つだけのとても素敵な作品が出来上がりました。

(幼稚部・松尾)



作品作りの様子



「赤ちゃん組の作品も可愛いね～♪」

部・齊藤正恵

自然な体験をしていきます。(幼稚部)

は五感を使いながら秋の自然を感じます。五感を楽しむな

ど、子どもたち

じたり、野鳥のさえずりを聞

いたりするな

り、イチヨウか

らぎんなんが

落ち匂いを感

の色が変わり

落ちていいく様

子に気づいた

す。サクラの葉

拾いも子どもたちにとつて

楽しむ遊びで

出たバッタを捕まえようと夢中で追

いかけています。松ぼっくりやどんぐり



コイの泳ぐ姿にも興味津々



バッタさん、いた!

園構内を散策する「学内散歩」は、学園の豊かな環境が味わえる子どもたちが日々楽しんでいる活動の一つです。春の入園の頃、立ち乗りカートに乗つていたりんどう組(1歳児)の子どもたちは保育者や友だちと手を繋いで歩けます。1号館裏の芝地です。芝生に隠れるようになり、また、おんぶやお座りカートに乗っていたひまわり組(0歳児)の子どもたちは立ち乗りカートに乗れるようになるほど成長し、秋の「学内散歩」を楽しんでいます。子どもたちに人気の散歩先は『王様の道』と呼んでいます。1号館裏の芝地です。芝生に隠れるバッタをじっくりと観察したり、跳び出たバッタを捕まえようと夢中で追いかけています。松ぼっくりやどんぐり

ひまわり・りんどう組「学内散歩」を通して

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



125th since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



相模女子大学の歴史は、1900年に西澤之助により日本女学校が設立されたことに始まります。それ以後、建学の精神「高潔善美～固きこころをもって、やさしき行いをせよ～」のもと、我が国の女子教育のパイオニアとして多くの人材を社会に送り出してきました。

110周年時には、大学は「見つめる人になる。見つける人になる。」を教育スローガンに掲げましたが、「Sagami Vision 2020」の提示に合わせて学園全体の教育スローガンとなりました。

このスローガンに込められた思いは、自分たちの生活の足場をしっかりと「見つめ」、そこから新しい社会のあり方を「見つける」人を育てるというものです。建学の精神に高い人間性を希求する教養教育を現代的に表現しております。



毎日の食事が健康のカギ 豊かな心は食事から

仁部成江 鎌倉市立小学校 栄養教諭
(昭和60年学芸学部食物学科管理栄養士専攻卒)



「ボナペティ給食」フランス料理

●本学専門職大学院社会起業研究科に入学

昭和60年、相模女子大学 学芸学部食物学科 管理栄養士専攻を卒業後、神奈川県公務員として鎌倉市の小学校栄養職員に配属後、現在は同市の小学校栄養教諭として勤務しております(勤続37年)。退職を目前に控え、これから的人生を社会とのつながりを持ちながら、今まで培った知識や経験を活かすことが出来るのではないかと考え、さらに学びを続けたいと思い、社会起業研究科へ入学しました。今まで、一般企業での就労経験がなく、会社のルールや、お金の流れなど全く知識がないまま授業をスタートし、当然ですがマーケティングについてわからないことが多く、続けられるのか不安でしたが、学びを進めていくうちに今の職業にも活かすことが出来るとても奥深い内容ばかりで、2年間を楽しく過ごすことが出来ました。年齢も経験も全く違う仲間と共に沢山の学びが受けられたことも、世界が広がり経験豊かな充実した貴重な時間を過ごすことが出来ました。

●現在の職業を将来へと活かす

現在勤務しております鎌倉市は、フランスのニースとの姉妹都市になっています。この度東京オリンピック2020の開催にあたり、ヨットレースが湘南の海で行われることから、国際交流や、国

際理解の観点からフランスの食事を学校給食でも取り上げました。食育としての意味はもちろん、フランスチーム応援など様々な角度から児童へメッセージとして企画を行い、メディアを通じ広くPRすることで興味関心を深めてもらうことが出来ました。

また、社会起業研究科での学びでは、コロナ禍の中でオンライン授業というパソコンのITを通じた未経験のリモートから始める事となり、最先端の授業スタイルで学ぶこととなりました。「まちだ未来ビジネスアイデアコンテスト2020」でのビジネス提案(きらぼし銀行賞受賞)や、動画編集、財務評価、地方創生、YouTube配信等、幅広く学ぶことが出来ました。

高齢化社会へと向かい、社会事情が変化している中ですが、これから時代を食と健康を繋ぎ、医療に頼らざる人々が健康で豊かな生活を送れるように、これまでの管理栄養士・栄養教諭としての職業経験を活かして、食事の大切さ、バランスの良い食べ方、健康食などの提案をモットーに、食品の商品開発やインターネットによる動画配信等の事業計画を考えているところです。毎日の食生活に役立つサービス事業を通じて、社会貢献に努めています。

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。

ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。

今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和3年3月末現在	令和3年9月末現在
マーガレット募金額	51,798,395 円	53,753,267 円

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。

使途について、「学習活動支援」「キャンバス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。



① お振込(郵便局または銀行窓口) ② 郵送(現金書留)またはご持参 ③ 自動振替での継続

詳細につきましては、大学ホームページ(<https://www.sagami-wu.ac.jp/>)をご覧いただき、下記事務局までお問い合わせください。

●マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp

●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先

相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 相模女子大学